


2. 瀬戸内海における湾・灘ごとの主な伝統行事

注記：使用している画像は、自治体より提供して頂いたもの、自治体の観光協会等の公的機関のホームページおよび協会保有のものから引用した。

京 都

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
京都府	祇園祭（京都市）  公益財団法人祇園祭山鉾連合会 京都市中京区室町通蛸薬師下ル 山伏山町 554 TEL：075-223-6040 URL: http://www.gionmatsuri.or.jp/	<p>京都八坂神社の祇園祭は、千百年余の伝統を有し、毎年7月1日の「吉符（きっぷ）入り」から31日の疫神社「夏越祓（なごしのはらえ）」まで1カ月に渡る神事で、古くは祇園御霊会（ぎおんごりょうえ）と呼ばれ、平安時代の貞観11年（869年）に都を中心に全国的に流行した疫病退散の神事を行ったことが始まりとされる。</p> <p>この祇園祭の季節に、鰻（ハモ）料理は欠かすことができないものとなっている。なぜ、鰻を食べるのかという理由は、特に暑い祇園祭の時期に長いものを食べると精力が付くとか、生命力の非常に強い魚であるために輸送技術が発達していなかった時代でも、大阪湾や明石海峡で採れた鰻を夏に京都まで生きたまま輸送できたからといわれている。祇園祭りは別名「鰻祭」とも呼ばれている。</p>

大 阪 湾

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大阪府	住吉祭（夏祭） 特に大阪湾海上の安全を祈る「神輿洗神事」（大阪市）  住吉大社 〒558-0045 大阪府大阪市住吉区住吉 2丁目 9-89 TEL：06-6672-0753 URL： http://www.sumiyoshitaisha.net/calender/natu.html	<p>大阪最後の夏祭りを締めくくる住吉祭は、大阪中をお祓いする「お清め」の意義があり、古くより「おはらい」ともいわれた。7月の「海の日」に「神輿洗神事」、7月30日に「宵宮祭」、翌日「例大祭」、そして8月1日にはいよいよ、住吉大神の御神霊（おみたま）をお遷した神輿が行列を仕立て、堺の宿院頓宮（しゅくいんとんぐう）までお渡りする「神輿渡御（みこしとぎよ）」が行われる。</p> <p>神輿洗神事とは、住吉祭の8月1日に堺市宿院への神輿渡御に先立って、その神輿をお清めする神事で、神輿を住吉大社から向かいの住吉公園まで巡行し、海水によって神輿が祓い清められる。この海水は、直前に「汐汲舟」（しおくみぶね）と呼ばれる舟を出し、大阪湾沖合いの神聖な海水を汲み上げたものである。神輿は海水で清める神事を終えたのち、住吉大社までお還りになる。</p> <p>住吉大神は、お祓い、航海安全、和歌の道、産業育成などを守護している。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大阪府	<p>堺大魚夜市（堺市）</p>  <p>堺大魚夜市実行委員会 【堺市自治連合協議会、堺商工会議所、（一社）堺高石青年会議所、（公社）堺観光コンベンション協会】 問い合せ先：堺大魚夜市実行委員会事務局 URL：http://yoich.com/</p>	<p>堺大魚夜市（さかいおおうおよいち）とは、大阪府堺市堺区にある大浜公園で毎年7月31日に行われる魚市、祭の事である。鎌倉時代に始まったと言われ、およそ700年の歴史を誇る堺の夏の風物詩的行事となっている。</p> <p>8月1日に、住吉大社の夏越祓神事（なごしのはらえしんじ）に際して、神輿が堺の宿院頓宮（しゅくいんとんぐう）（住吉大社のお旅所）に渡御（とぎよ）するのに合わせて、地元の漁師たちが魚を持ち寄って神前に奉納。その際、大浜海岸に魚市が立ったことに由来する。古くは7月31日深夜から8月1日にかけて行われていたという。</p> <p>戦争により一時中断したが、昭和25年（1950年）に再開した。昭和33年（1958年）に大浜海岸が埋め立てられたため、大浜公園に舞台を移し昭和49年（1974年）まで続いた。その後、昭和57年（1982年）に再び復活し、以降の開催地は主として大浜公園だが、一時ザビエル公園に変更したこともあり、平成15、16年（2003、2004年）は浜寺公園で開催された。平成17年（2005年）からは再び大浜公園で開催され、現在に至っている。</p>
	<p>岸和田だんじり祭（岸和田市）</p> <p>岸和田市観光課 〒596-8510 大阪府岸和田市岸城町7番1号 岸和田市役所別館4階 TEL：072-423-9486 URL： https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/danjiri/</p> 	<p>「岸和田だんじり祭」は、元禄16年（1703年）、岸和田藩主岡部長泰（おかべながやす）公が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穡）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられている。約300年の歴史と伝統を誇る祭りである。当初、祭礼は「にわか」や狂言などの芸事を演じ、その後三の丸神社、岸城神社へ参拝したようである。</p> <p>岸和田だんじり祭は、9月と10月に地区ごとに分かれて行われる。</p> <p>だんじりを持つ町では、子どもからお年寄りまで年齢層ごとに役割が決められ、それぞれその役割を分担し、だんじり祭が運営されている。このように幅広い世代で統制のとれた組織ができあがっているのは、岸和田のだんじり祭の大きな特長である。一方、各地区のだんじり祭全体の総括的な運営は、毎年各町から選出される「年番」により行われ、年番を代表する年番長は、最高責任者として祭りを統括することになっている。</p> <p>秋に旬を迎えるワタリガニを祭りの時にふるまう習慣がある。</p>
兵庫県	<p>住吉神社 浜戎まつり（西宮市） 西宮神社末社住吉神社 兵庫県西宮市西波止町4-4 TEL: 0798-33-0321</p>	<p>元は漁師たちの祭礼で、西宮市朝風町辺りに祀られていた浜戎神社で行われていたが、昭和39年（1964年）に住吉神社境内に移転し、お祀りされている。7月31日に夏祭が行われている。</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	住吉神社 夏祭（西宮市） 西宮神社末社住吉神社 兵庫県西宮市西波止町 4-4 TEL: 0798-33-0321	昭和 48 年（1973 年）より夏祭の時に船型のだんじり（住吉丸）を曳く。漁船をだんじりに転用した。
	福應神社 夏祭・秋祭（西宮市） 福應神社 TEL: 0798-26-0769 西宮市今津大東町 1-28	昭和 56 年（1981 年）より、夏祭（7 月第 2 土曜、日曜）・秋祭（10 月 13 日）のときに船型のだんじり（恵比須丸）を曳行する。
	西宮神社 渡御祭（西宮まつり） （西宮市） 西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町 1-17 TEL: 0798-33-0321 URL: http://nishinomiya-ebisu.com/event/eventOI.html#18	<p>この祭事は、昔西宮の鳴尾の漁師が、神戸和田岬の沖で漁をしていたところ、えびす様の御神像がかかったので持ち帰ってお祀りし、さらに今の西宮神社の地にお連れしたという、神社の古い御鎮座伝説に由来するもの。和田岬への神幸は当社の神事の中で最も賑やかな祭りとして受け継がれてきたが、約 400 年前、織田信長の時代に社領を失ったため廃絶した。その後は祭典のみが厳修されていた。</p> <p>昭和 29 年（1954 年）からは、みこし行列が市内を巡行する渡御祭(陸渡御)が再興されたが、平成 7 年の阪神大震災により中断。平成 12 年（2000 年）、震災からの復興のめどが立ち、みこし巡行を再興するに当たって「西宮まつり協議会」を結成し、念願の海上渡御を両興し、西宮港内を周航した。</p> <p>平成 21 年（2009 年）は海上渡御祭再興 10 周年ということで、400 年前の古儀に倣い、全船団が神戸・和田岬まで参り、御旅所祭(おたびしょさい)を執り行った。このことを、えびす様が海から御生れになった地へお連れするということから、「産宮参り」と古くより言い慣わしてきた。</p> <p>平成 22 年（2010 年）は、午前 10 時、御本殿でえびす様を神輿にお移しし、氏子四地区の内、当番の浜脇地区・前浜町にある辰馬本家酒造・白鹿本社工場構内にお旅所を設け、御旅所祭(おたびしょさい)を執り行い、宮司が祝詞を奏し、同地区の氏子の童女八人が神楽を奏した。</p> <p>その後、車で新西宮ヨットハーバーへ移動、ここから海上渡御となり、御前浜沖にて海上の安全を祈る『かざまつり』を斎行し八乙女らが切麻(きりぬさ)で海上を御破いた後、港内を周航し西宮神社に還御した。</p>
	事代主神社（ことしろぬしじんじゃ）豊漁祈願の「水かけまつり」 （淡路市） 事代主神社（ことしろぬしじんじゃ） 所在地： 兵庫県淡路市飯屋 242 TEL： 0799-74-5975	毎年 9 月第 3 土曜日に行なわれる 豊漁祈願の「水かけまつり」は、漁業の町飯屋では有名な祭礼である。明治初期から続く伝統行事で、地元の船大工が地域の繁栄を願い、同神社にみこしを奉納したのが始まりとされる。御輿は道端から勢いよく浴びせられる水をくぐり抜け、最後には海へそのまま飛び込む勇壮な祭である。昔は若い衆が担いでいたので 喧嘩が絶えず「けんかされているまつり」とも言われていた。また、



府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		みこしにまかれた胴巻きが、昔から安産のお守りとされており、これを取り合うところから「けんかまつり」の名がおこったとも言われている。
	宝の海神社豊漁祈願祭（神戸市）  神戸市漁業協同組合	神戸市西部漁業協同組合（当時）の山田岸松組合長が海洋環境の悪化や海上交通の輻輳化等で海上事故の多発を憂い、漁業者が安心して生業できる漁業漁村の創造を願って開催された。 （10月10日開催）
	浦祈禱祈願祭・浜芝居(恵比須舞) 石屋（いわや）神社 兵庫県淡路市岩屋字明神799	石屋神社は、平安時代に書かれた、延喜式に登場する淡路で最も古い神社である。祭神は国常立尊（くにとこたちのみこと）・イザナギ尊・イザナミ尊の三柱。 3月第2土曜に「浦祈禱祈願祭・浜芝居」が行われ、一年の豊作・豊漁を祈願する。恵比須舞(えびすまい)は、えびす様が鯛を釣上げる場面は必見である。また、5・9月第2土曜日にはだんじりもくりだす祭りが行われ、島の人々の信仰も篤い神社である。

播 磨 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	坂越（さこし）の船祭（赤穂市坂越） ※国指定重要無形民俗文化財 坂越の船渡御祭保存会 TEL：0791-48-8136 赤穂市坂越1297 大避神社社務所内	大避（おおさけ）神社は祭神を秦河勝とし、坂越の産土神として信仰をあつめてきた。坂越の船祭は、この大避神社の秋の例大祭であり、神輿が神社から生島（いくしま）にある御旅所までを渡御するもので、この生島が浮かぶ坂越湾を舞台に繰り広げられる。毎年10月の第2日曜日の本宮では、神社から眼下の海岸まで、鼻高と獅子を先頭に各町の頭人が神輿に付き添いながら行列した後、海岸から御旅所のある生島まで二艘の權伝馬に曳航された獅子船五艘の頭人船、楽船、神輿船、歌船からなる船団を連ねて湾内を悠然と巡行する海上渡御となり、祭礼はクライマックスを迎える。江戸時代からほぼ変わらぬ姿で伝承されてきたこの船祭は、瀬戸内海を代